

JAL 愛媛原告を支える会



発行：JAL 不当解雇とたたかう愛媛原告を支える会
 連絡先：愛媛自治労連会館3F 愛媛労連内
 松山市三番町8-10-2 Tel 089-945-4526



(大統領府のあるプラハ城)

ハヴェルに会いたくて！

雪化粧は遠くの山々に見える。平地に雪はとうとう降らなかった。母の形見の沈丁花は例年より早く開き、今年も変わらぬ香りで癒してくれる。

ある番組で元チェコスロバキア共和国大統領のヴァーツラフ・ハヴェルの言葉が取り上げられていた。28年前、「ハヴェルさんに会いたい！」とその国を訪れたことを想い出した。

1980年代、激動の東欧で唯一武力に頼ることなくスムーズな民主化への体制変換が行わ

力なき者たちの力

れた国。ビロード革命と呼ばれた市民運動は良識と知性の勝利だった。(その20年前にプラハの春という武力弾圧の悲劇があったが)圧倒的に民衆に選ばれた彼は何度も投獄された信念の人であり、言葉の力を信じた戯曲家でもあった。チェコスロバキアは壮大で郷愁を誘うスメタナの交響詩「わが祖国」を生んだ国であり、バドワイザービールを産んだ国でもある。

訪れたのは1992年7月。(1993年チェコ共和国とス

ロバキア共和国に分離される直前だったことになる)

果たして人々は明るく親切。道に迷っている東洋人の若い女性に言葉が通じないことを承知で声をかけてくれた。歴史に残る偉業を成し遂げた自信に満ち溢れているように見えた。上質な音楽が街中に溢れチェコフィルでさえ気軽に聞けた。

(裏面に続く)



空の安全と年金制度を守ること

社保庁愛媛支援共闘会議副議長
鴨川 耕作

年間、とりわけ安倍政権で年金額が実質6.4%も減っている。(8.3%が1ヵ月分に相当)。この二つの職場の大量解雇が単なる首切りではなく「空の安全を壊し、公的年金制度を限りなく後退させる」ことであったことを証明している。

歴史は10年、20年でみると後退しているようにもみえることがある。しかし50年、100年のスパンでみると世界でも日本でも確実に自由と民主主義を前進させてきた歴史であった。このことは誰も止めることは決して出来ない。おかしいことはおかしいと勇敢に立ち上がって闘っているJALの仲間にも心からの連帯をこれからも続けたいし共に闘っていきたい。

私も

応援します

娘が東京で働いているので幼い3人の孫の世話でこの10年間、連れ合いと何度なく飛行機で上京した。私にとって空の安全は決して他人ごとではない。社会保険庁を退職後も社会保険労務士として障害年金などの相談、手続きの仕事で年金に関わってきた。そして公的年金制度の後退を目の当たりにしてきた。

JALの職場はパイロットの飲酒問題等々空の安全問題は深刻である。飲酒はもちろん許されることではないが解雇されたJALの仲間が訴えるように職場の深部の深刻さが増していることが容易に想像できる。社保庁で私の後輩が分限免職された年金の仕事をしている職場においてはどうか、この10

JAL 不当解雇撤回争議団
松山市在住 林 惠美

オリンピック・パラリンピックの前に

3.16 松山空港前宣伝

なんとしても解決を



うたこえの仲間、社保庁不当解雇撤回闘争支援愛媛共闘会議など皆さんの応援を得て元気に宣伝!!



空港支店要請を行う争議団と支援者

1992.7
搭乗した、今は無きチェコスロバキア航空



プラハ城に大統領執務室もあると聞き訪ねた。城内にあるカフカも住んでいたという小路は中世のままだ。ハヴェルが日常訪れると言う人民食堂は誰でも出入り自由だった。もし目の前にハヴェルが現れたらどうしよう?! 28年前のドキドキが蘇る。国のリーダーがこれほど身近に感じられる人々が眩ましかった。日本にそのような日は来るのだろうか? 知性と行動力溢れるリーダーを選ぶのは一人一人の市民であり、それがハヴェルの言う「力なき者たちの力」なのである。2011年、彼の訃報を新聞の小さな記事で知った。彼がよく訴えた「真実の生」(真実と自由は勝つ)の意味するところが自分が置かれた不当解雇撤回運動が重なる。周囲に合わせるだけの「嘘の生」は思考停止を招き社会の発展には繋がらない。「力」なき一人一人が自らの「力」を自覚したとき社会は動く。と教えてくれた。小さな力こそ勝利の原動力なのだ。